

「一人一人の存在感を大切に」

副校長 柏木拓也

雪解けとともに、厳しかった寒さも和らぎ、陽射しなどにやっと春を感じるようになってきました。この時期、クロッカスが早春の陽射しを受けて一斉に花開く様子に、毎年目がとまります。その様子は、まばゆいばかりで、春の訪れを一気に感じさせてくれるとともに、小さいながらも存在感があります。霜や凍結にも負けずに元気に咲くキュートな花は、とても親しみもあり、元気を与えてくれるものです。

平成30年度がスタートし、3週間が過ぎました。子どもたちと教職員の元気な声と笑い声、そして笑顔があふれる校舎に、今年度の真駒内養護学校が動き出したことを実感しています。

さて、先日開催した全体説明会において、学校長から各学部の連続性について話がありました。昨年度、私も学校見学時の説明や教育実習生のオリエンテーションの中で、本校の教育課程を説明する際に、体育的行事や文化的行事の学部間のつながり（ねらいの連続性）を例えに話をすることがありました。

文化的行事は各学部で名称も異なり、小学部では「学習発表会」、中学部では「文化祭」、高等部では「高等部祭」となります。そのねらいについて、小学部では「日頃の学習成果を発表し」「相互に鑑賞」「保護者や地域の人たちに発表」等の言葉で構成されています。中学部では「委員会活動や学年活動の中で企画したものを具現化」「自分たちでアイデアを出し合い」「自治活動につなげ」「文化祭を作り上げる」となります。高等部では、「個性を發揮し」「販売活動や表現活動」「地域の人たちに公開」「高等部の教育活動の理解を深める」等となります。各学部のキーワードとして示される「小学部：広げる」「中学部：焦点化する」「高等部：發揮する」を具現化したねらいとなっており、学習内容が構成されることとなります。

行事だけでなく日常の学習からもこの連続性を踏まえた年間計画が作成されており、これからの授業参観の際にも是非、感じていただければと思います。

クロッカスには秋咲きのものもあると聞いています。丁度、その10月頃に、学校では、学習発表会を皮切りに文化的行事が始まります。保護者の皆様には、そのステージで学部間のつながりを意識しつつ、子どもたち一人一人の「存在感」のある活躍を楽しみにしていただければと思います。

最後になりますが、保護者の皆様には、今年度も様々な場面でご協力いただくことがあると思います。子どもたちの育ちをともに支えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。